２０２４年度　第１回教育課程編成委員会　議事録

日　時　　：２０２４年7月１０日（水）　１４：００～１５：１５
場　所　　：愛仁会看護助産専門学校　２階会議室
委　員（敬称略）：公益社団法人大阪府看護協会　会長　弘川　摩子
Office Kyo-shien　代表　池西　静江
社会医療法人愛仁会　カーム尼崎健診プラザ　所長　松森　良信
社会医療法人愛仁会　愛仁会本部　看護担当特任理事　増山　路子
愛仁会看護助産専門学校　学校長　　清水　富男
愛仁会看護助産専門学校　副学校長　藤尾　泰子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事　小林　理絵、清水　弘子
愛仁会看護助産専門学校　助産学科　教育主事　大石　有香
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　実習調整者　長嶺　洋子
愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者　西山　玲子
愛仁会看護助産専門学校　事務部長　木田　尚樹
愛仁会看護助産専門学校　事務　　川口　璃子（書記）

議事次第
１．学校長挨拶
２．出席委員の紹介
３．第１回テーマ「2023 年度教育運営評価とヘルスプロモーション実習報告及び検討」
藤尾副学校長より 2023 年度教育運営評価について、小林教育主事よりヘルスプロモーション実習報告及び検討について説明がなされた。※別紙参照
４．意見交換
（委員）全国的に看護学校では定員割れが起きている。定員確保のためにどのような努力がなされているのか。
（学校）積極的に学校訪問や進学説明会を行っている。姉妹校である明石医療センター附属看護専門学校の youtube での情報発信等を参考にしながら、ＳＮＳ発信に取り組んでいる。
（学校）インスタグラムの閲覧数調査を行うと、学生の何気ない場面や実習関連の場面の閲覧数が高くなっていることがわかったので、ＳＮＳを通じて積極的に発信していきたい。
また、教員による学校訪問や指定校推薦の枠を増やすなど対策を行っているので、成果をみていきたい。
（学校）受験生は法人内の高槻病院や千船病院等どこかの法人内施設に触れ合っており、知ってもらえていることが多い。また、学生に対して経済的負担を減らすために奨学金制度を設けている。次年度の受験生数はどうなるのかわからないため、高校訪問時等でアピールすることが大切である。
（委員）専門学校は病院との繋がりが大切であり、その部分をアピールしていかないといけない。定員の半分しか学生確保できない学校もあると聞いている中、定員確保できており素晴らしい。定員確保ができている学校では、ＡＯ入試の導入を行っている。学力を重視せず、どれだけ看護に興

味があるか等、視点を変えて学生を育てるといった発想の転換が必要であると感じている。

（委員）ベトナム学生との国際交流をアピールしてはどうか。

（学校）韓国の大学生と本校の学生でコミュニケーションを図る機会もあるので、ＳＮＳを通じて外部へ宣伝していきたい。

（学校）次年度の「ヘルスプロモーション実習」に向けて、実習の考え方や実習場所を確保する方法等のアドバイスをいただきたい。

（委員）「ヘルスプロモーション実習」の評価は何で行っているのか。

（学校）カンファレンスでの発言、記録物、まとめのレポート・発言から行っている。

（委員）学生は「地域・在宅看護概論」を受けずに「ヘルスプロモーション実習」に行っているのか。

（学校）1年次に「地域・在宅看護概論」は受けていないが「地域と看護」にて、地域にどんな人が生活をしているのかを学ぶフィールドワークを行っている。

（委員）学生は「地域と看護」を受けるのみで、「ヘルスプロモーション実習」に行っているのか。

（学校）1年次にそれぞれの概論にて対象特性を学んでいる。

（学校）「成人看護学概論」にて「ヘルスプロモーション」を学ばせている。

（委員）学科で何をおさえて、実習で何を教えるのか狙いがわかりにくい。成人を対象にした教育支援はどこでどのように教えているのか。他校では、保健指導や健康教育を1つの科目として設定していることが多い。

（学校）シラバス p57「成人看護学概論」のヘルスプロモーションと看護のコマで教えているが、体験場所を学ぶ機会はない。必要な健康支援については、それぞれの段階に応じて作成している。

（学校）実習をおさえるために作成した科目内容となっている。

（委員）妊娠・乳幼児期～思春期では生活習慣の改善ではなく、獲得ではないか。

（委員）実習経験は異なるのに到達目標が1つとなっているため、学生に不平等となるのではないか。

（学校）どこで平等性を持たせるかを議論した際、最後のまとめで学びの共有をするしかないと結論に至った。

（委員）自己決定ができる人を対象とした方が、実習がしやすいのではないか。

（委員）対象範囲が広すぎるので、対象を絞ってはどうか。

（委員）この実習での学びは大切であるが、評価がつく科目として続けていくのか検討が必要である。

（学校）「ヘルスプロモーション実習」を科目として継続するか、また教科外活動として行うのかも含めて検討していきたい。

（委員）最近の高齢者は健康意識が高い。壮年期では保健師がメタボ対策・指導を行ったり、高齢者に対してはサルコペニア対策を行ったりしているので、その2つに絞って介入してはどうか。

（委員）ライフステージごとに学ぶことを諦めなければならない。乳幼児期はヘルスプロモーション実習の対象ではない。実習において「地域」を考える部分が少ない。

（学校）「ヘルスプロモーション」の捉え方について再度教員間で共通認識をする必要がある。学生に学ばせたい年齢層の対象を絞り、評価表も再検討しなければならない。

（委員）「地域中ごろ」をどう捉えるのかが大切である。実習として面白いが、確実に成果を上げられる安定した実習場所確保が必要である。

（委員）まず「ヘルスプロモーション」の考え方の整理を行い、実習時間内で学生の学びがまとめられるように実習内容を検討しなければならない。また、地域を主体としたときに学校が教えたいことの整理が必要である。

（委員）ライフステージではなくライフコースの発想を使ってみても良いのではないか。

（委員）「ヘルスプロモーション」はこれからの看護の役割においてとても大切であり良い実習であるが、各領域別実習になっており、まとめがつながっておらず目的とギャップがある。トータル的に「ヘルスプロモーション」の考え方を実習で学ぶこと大切である。実習場所は行政の力を借り、安定した実習場所の確保をしてはどうか。素晴らしい実習であり、他校にも広めたり、今後も継続してもらえたら良い。

（学校）新カリキュラム導入より３年目となるため、カリキュラム内容を検証していきたい。

以上